

三宅島

○概況（平成17年7月）

火山活動はやや活発で、多量の火山ガス放出が続いています。

山頂火口では今後も山麓に降灰をもたらす程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。二酸化硫黄を含む多量の火山ガス放出はしばらく継続すると考えられますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

表1 三宅島 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第361号 ↓(1日2回発表) 火山観測情報第422号	1日 09:30 ↓ 31日 16:30	最近の火山活動評価、火山活動の状況(噴煙・地震)及び上空の風・火山ガス移動の予想。

○火山ガス放出の状況

二酸化硫黄放出量は1日あたり2,000～5,000トン程度で、現在も依然として多量の火山ガス放出が続いています（表2、図1）。

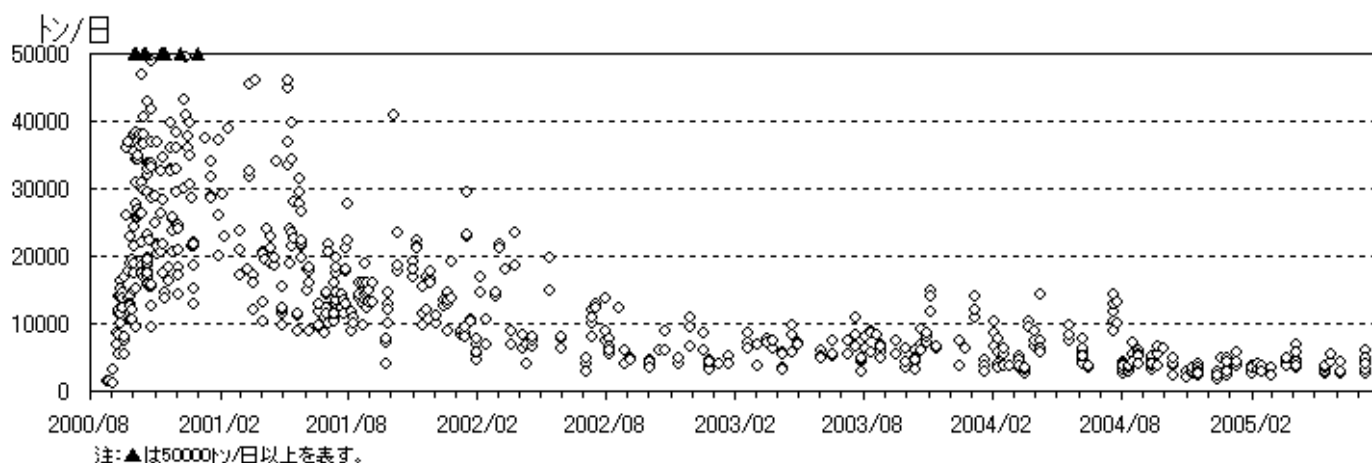


図1 三宅島 山頂火口からの二酸化硫黄放出量(2000年8月26日～2005年7月31日)

二酸化硫黄放出量の観測は陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て行っています。

表2 三宅島 山頂火口からの二酸化硫黄放出量と火口内最高温度

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
7月12日	2,500～5,900トン/日	—	海上自衛隊

○山頂火口内の状況

12日に実施した上空からの観測では、火口内最高温度は雲のため観測できませんでした（図2）。

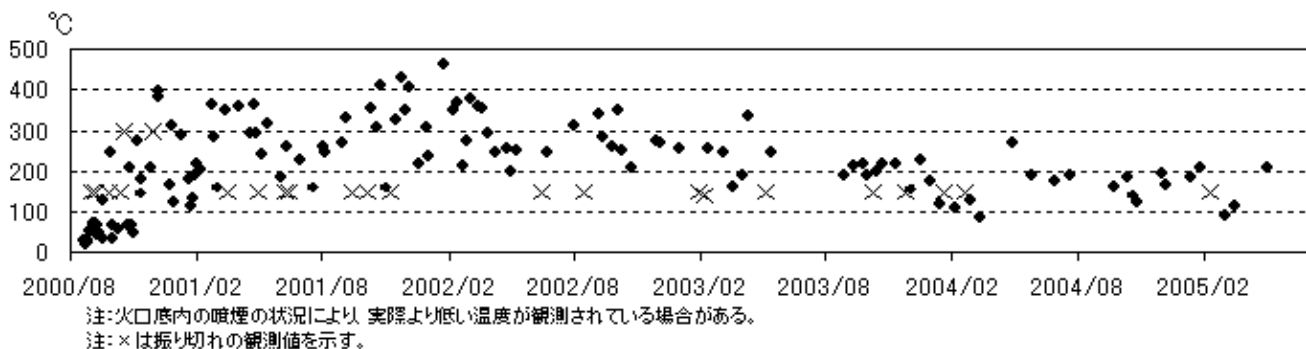


図2 三宅島 山頂火口内の最高温度の推移(2000年8月26日～2005年7月31日)

上空からの観測は陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て行っています。

○噴煙活動の状況

山頂火口からは白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙活動は依然として活発な状態が続いています。期間中の噴煙高度の最高は火口縁上300mでした（表3、図3）。

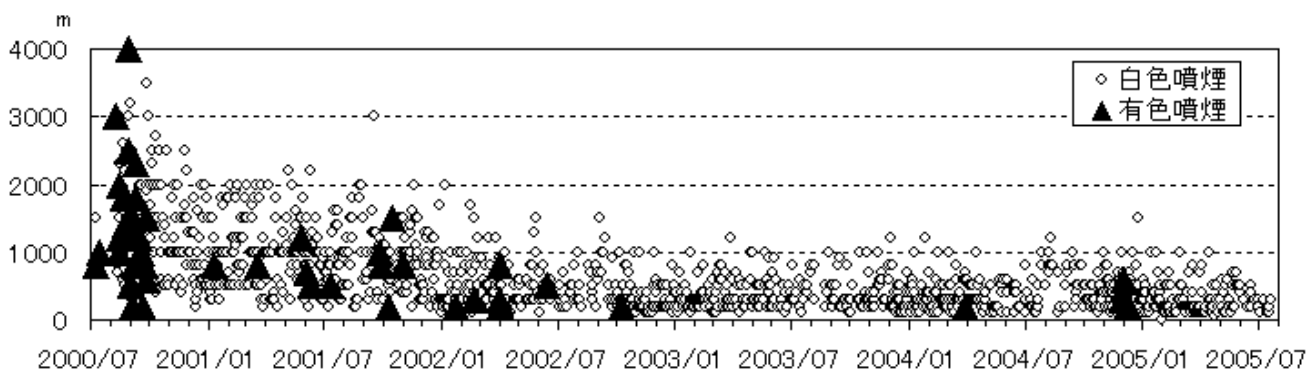


図3 三宅島 日別最高噴煙高度(2000年7月8日～2005年7月31日)

○地震及び微動の発生状況

7月2～3日と21日に火山性地震が一時的に増加し、1日あたりの地震回数は2日80回、3日325回、21日92回となりました。これらの地震増加中に空振を伴う低周波地震*が3日は3回、21日は6回発生しました。3日の地震発生時の噴煙は雲のため確認できませんでした。その他の観測データには特に異常は見られませんでした。21日の地震発生時には噴煙に異常は認められず、三宅島測候所の現地調査でも降灰は確認されませんでした。

空振を伴う低周波地震は16日にも4回発生しましたが、この時には目立った地震増加を伴わず、噴煙にも異常はありませんでした。

それ以外の日には地震回数の少ない状態が続き、1日あたり0～22回で経過しました（表3、図4）。

*空振を伴う低周波地震が発生した場合には山頂火口から火山灰を噴出することがあります。

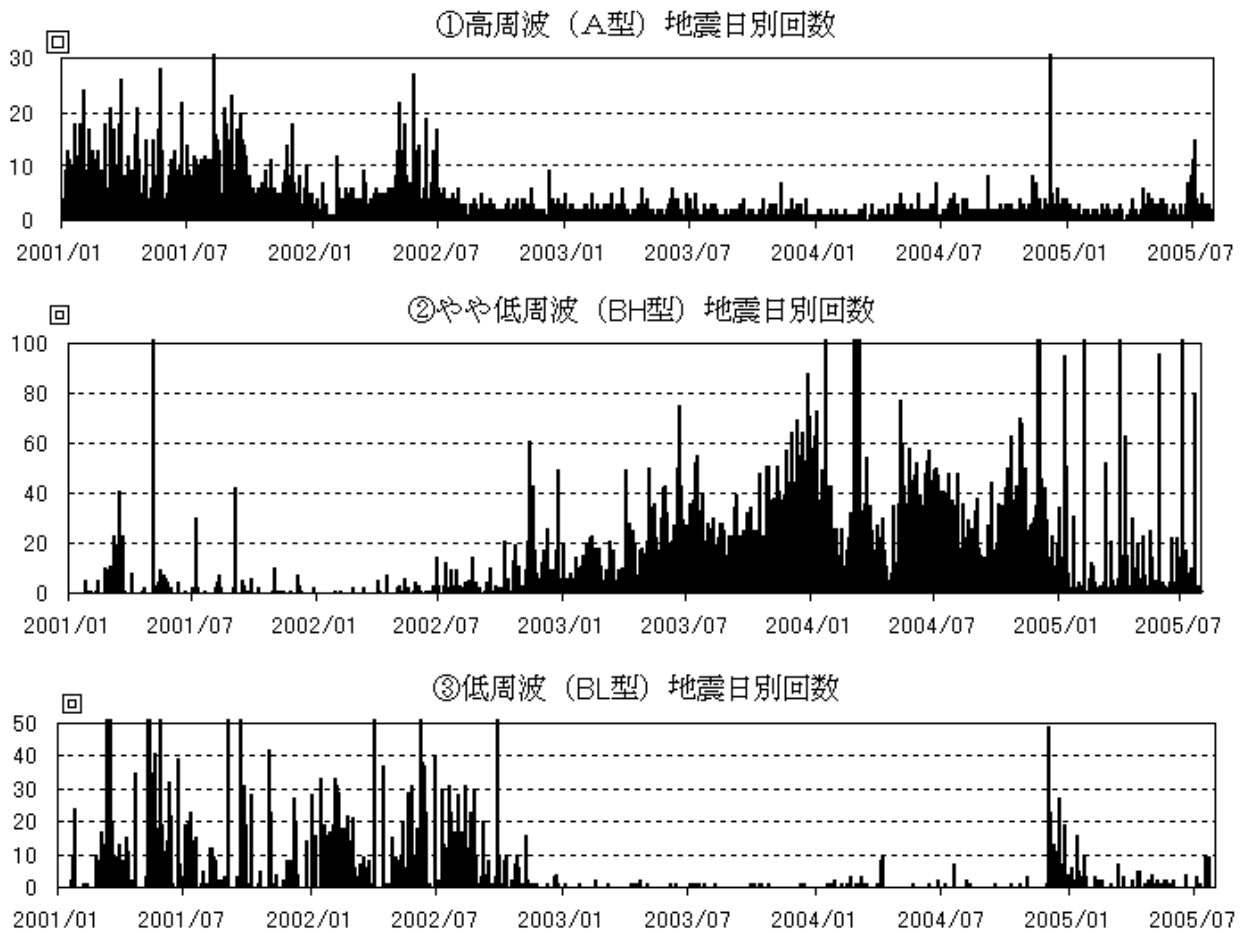


図4 三宅島 日別地震回数 (2001年1月1日～2005年7月31日)

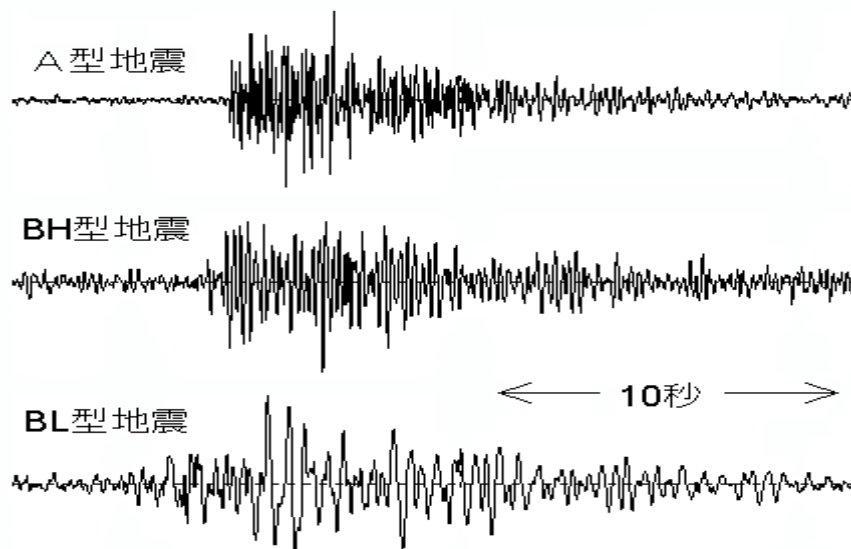


図5 三宅島 地震回数グラフで分類している地震の種類 waveform 例

上 : A 型地震 : 高周波地震

中 : BH 型地震 : 約 3 Hz 以上が卓越するやや低周波地震

下 : BL 型地震 : 約 3 Hz 以下が卓越する低周波地震

表3 三宅島 2005 年7月の火山活動状況

2005年 7月	噴火 回数	火山性地震の回数 1)			微動回数	噴煙の状況 2)		備考
		A型	BH型	BL型(空振)		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	1	14	0	0	200	1	
2日	0	11	69	0	0	100	1	
3日	0	15	307	3(3)	0	×	×	10時59分 震度1:神着
4日	0	4	3	0	0	×	×	
5日	0	0	5	0	0	×	×	
6日	0	4	3	0	0	×	×	14時57分 震度1:神着、坪田
7日	0	1	0	0	0	×	×	
8日	0	2	0	0	0	300	1	
9日	0	3	17	1	0	×	×	
10日	0	0	3	0	0	×	×	
11日	0	1	8	0	0	×	×	
12日	0	1	2	0	0	×	×	SO2放出量 2500~5900トン/日
13日	0	5	2	0	0	×	×	
14日	0	3	0	0	0	×	×	
15日	0	2	3	0	0	100	1	
16日	0	3	10	9(4)	0	100	1	
17日	0	2	1	0	0	200	1	
18日	0	1	1	0	0	×	×	
19日	0	1	0	0	0	×	×	
20日	0	1	1	0	0	300	2	
21日	0	3	80	9(6)	0	300	1	07時53分 震度1:神着
22日	0	2	0	0	0	×	×	
23日	0	0	0	0	0	×	×	
24日	0	3	0	0	0	×	×	
25日	0	2	3	0	0	×	×	
26日	0	0	1	0	0	×	×	
27日	0	0	1	0	0	200	1	
28日	0	1	1	0	0	300	1	
29日	0	0	3	0	0	×	×	
30日	0	2	0	0	0	×	×	
31日	0	0	1	0	0	200	1	
合計	0	74	539	22(13)	0	300	2	最大値

1) 火山性地震の種類は図4と同様で以下の通りです（波形例は図5に示してあります）

A型地震：高周波地震

BH型地震：約3Hz以上が卓越するやや低周波地震

BL型地震：約3Hz以下が卓越する低周波地震

なお、BL型地震回数欄にある括弧内の数値は空振を伴った低周波地震の回数を示しています

2) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測（09時・12時・15時）の日最大値です。噴煙量は1～7の7階級で観測しています。

（詳細は <http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/kaisetsu/funenryo/funenryo.htm> 参照）

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏までに達したと思われるもの

0：噴煙なし ×：不明